

令和5年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人 二階堂学園

日本女子体育大学附属みどり幼稚園

1. 教育目標

- ・明るく元気な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・発想の豊かな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・保育環境の充実としてビオトープを整備し、園児が自然と触れ合い感性豊かな心の成長と、生き物や植物に興味関心が持てるよう保育を展開する。
- ・年少児、年中児の課外活動としてMACを開講し、様々な活動を通して多くの教員たちとの関りを持ち楽しい時間を過ごす。

3. 評価項目

項目	事項	評価の内容	自己評価	関係者評価
Ⅰ 教育 (保育)	カリキュラム	園児が主体的に活動するよう環境を作り、保育の質向上に努め、園児一人一人の発達を促していく。	A	A
		古くから伝承されてきた文化に対して興味、関心が持てるよう、年中行事を保育に取り組む。	A	A
		四季を通して、ビオトープや園内の木々や虫等より自然と関わり様々な体験ができるよう環境保育に取り組む。	A	A
		運動・リトミック・英語遊びに非常勤講師を迎え、連携をはかりながら園児の豊かな心と体作りを行う。	A	A
	食育	園児に食の大切さを伝え保育の中で「作る・食べる」の体験を楽しめるようにする。また年長児を中心に年間を通し野菜等を栽培し、収穫までの過程を通し、心身の育ちにつながるようにする。	A	B
預かり保育	預かり保育の需要増に伴い、より安全に充実した保育を目指す。長期休みにおいても担任が中心となり縦割り保育の実施や、年中行事を取り入れ親しみを持つ。	A	A	
大学連携	附属幼稚園として、幼稚園教諭を目指す学生が子どもへの理解を深め、援助方法を学べるよう支援を行う。また園児に日本女子体育大学の教員による専門指導の機会を設け園児の興味関心につながるようにする。	A	A	
安全対策	園内の安全管理を徹底しインターホンやドアの施錠、防犯カメラ等の整備を行い、保護者にもより安心できる園を目指す。また、地域の警察署と連携し、警察官の指導のもと防犯訓練を行い、職員の防犯意識を高める。	B	A	
Ⅱ 研究 活動	園内外への研修	積極的に園外研修会に参加し、一人一人の保育技術の向上につなげる。また、園内研修において職員間で共通課題に取り組み、より質の高い保育を目指す。	B	—

III 募集及び 広報活動	広報活動	園外での広報活動（合同説明会等）に積極的に参加し、広くみどり幼稚園をアピールしていく。	A	B	A
		見学会や説明会の内容を充実させ、アピールポイントでもある給食の試食会を開催し園児獲得を目指す。	A	A	
		ホームページや SNS を活用、充実させ、園外に保育内容や活動内容等のをせ、情報発信を行う。	B	B	
		未就園児クラスの展開方法や運営について検討し、充実した内容を考え、園児獲得につなげる。	A	A	
IV 社会貢献・ 地域連携	未就園児親子への支援	未就園児クラスを開講し、未就園児を持つ保護者を対象に育児相談会や子育て講習会も実施する。	B	A	B
		情報交換の場として園庭開放やお話の会を開催し、また、通常保育同様、安全に遊べるよう環境整備（砂場の管理・遊具点検）を行う。	A	A	
		年長児が小学校就学に向け小学校訪問をし、期待を持てるよう小学校と連携をはかる。	B	C	
V 子育て支援	在園児保護者への支援	教育時間終了後などに希望するものを対象に行う教育（預かり保育）を行い、教育課程内の担任教諭と連携しながら、園児一人ひとりの心身の状況をとらえ、家庭的な雰囲気の中、園児が安心して遊ぶことができるよう、それぞれに適した教育を実践する。	A	B	B
		引き続き ICT ツールを活用し、保護者にとって快適なツールを目指し、また園の活動などをわかりやすく保護者に伝える。	B	B	
		保護者支援の一環としてカルチャー講座などを行う。	A	A	
その他	課外教室の充実	保護者支援、また収入源確保のため、現在行っている MAC 教室の年中・年少クラスを月 1 回程度開講する。	A	A	

4. 関係者評価

I 教育（保育）

- ・**食育** 限られた敷地面積の中での野菜栽培など、工夫されているのを感じる。更に作物の量や種類が増えると、より作物の生育が身近になり、食物への意識が高まるのではないかな。
- ・**安全対策** 防犯カメラや施錠の徹底等、基本対策がしっかりされていると感じる。一方、南門側は職員室からも遠く、柵も低いため、施設の作り上、一定の不安が残る。

V 子育て支援

- ・配信ツールについて、お知らせタイトルに工夫があると後から読み返したい時に必要な情報を見つけやすい。分かりやすいタイトルで届くことも多いが、「お知らせ」「お願い」等のタイトルで届くこともあり、毎回統一されるとより利便性が高くなる。
- ・預かり対応も充実しており、働く保護者が増加している状況に合わせ、より良い形に進んでいる。一方、年長児の保護者活動では役員の負担が大きく、前述の幼稚園の良さと mismatch である。今後負担が軽減されると、子供と向き合える時間が増え、親子共により良い園生活になるのではないかな。

その他

* 「3. 4.」 の評価結果の表示方法

A	十分に成果があった	C	取り組まれているが、成果が不十分であった
B	成果があった	D	取組が不十分である

5. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>日々の保育を通し、子ども達が自ら考え、のびのび行動できるよう過ごしてきた。園内には、子ども達の元気な姿、歌声が響き、笑顔あふれる日々であった。今年度は、コロナ感染症が5類に引き下がり、通常生活を取戻し行事においても4年ぶりに様々な活動を行うことができた。運動会においては、全学年一斉での開催となり活気に溢れ、それぞれの学年の成長を保護者の方に見ていただくことができた。</p> <p>環境面においては、老朽化していたビオトープの改修整備を行い、以前にはなかった水の循環を取り入れ、水の流れの音に子ども達はいつの間にか集まり、それに伴い生き物や草木の興味関心も増し、保育環境が広がった。</p> <p>安全面においては、特に南門付近においての夜間の光の確保、日々の安全対策を徹底させ、保護者が安心して預けられる環境作りが必要と考える。</p> <p>課外教室の充実を図り、年少児・年中児のMAC教室を増やした。参加人数も徐々に増し、子ども達の興味関心の広がり、技術向上にもつながった。</p> <p>今後も日本女子体育大学附属としての特色、隣接する高等学校と連携をはかり、子ども達がのびのび運動に取り組めるよう、グラウンドや体育館の使用、大学施設の利用も増やし子ども達のより良い保育環境作りを目指す。</p>

6. 今後取り組む課題

		課題	具体的な取り組み方法
1	教育 (保育)	カリキュラム	子ども達が意欲的に活動し、自ら考え楽しく学べる環境作りを目指し、それぞれの成長を促していく。また日々の保育や園外保育等を通し、本物教育を伝えるように計画を立てる。
2		食育	畑を整備し、年間を通して花や野菜等を育てる。また給食にて食することにより、食べ物に関心が持てるようにする。また伝統行事（七夕・十五夜・餅つき・節分・ひなまつり等）季節を感じる行事を積極的に取り入れ、日本の文化を少しでも伝承できるようにする。
3		預かり保育	利用者増加に伴い、保護者が安心して預けられるよう、また子ども達が安心して長時間過ごせる保育内容、環境を整え、日々安全に過ごせるよう考えていく。
4		安全対策	安全対策に常に取り組み、警察や各所との連携を図り、登降園時の安全指導、近隣の迷惑にならないよう、安全面も含め配慮していく。また、夜間の光確保の為、街灯の設置、環境整備を行うと共に、フェンスの安全性も点検し、安心して過ごせる環境作りをする。
5	地域連携	未就園児親子支援	園庭開放・講演会や子育て支援活動を行い、保護者同士の交流・情報交換の場、安全に遊べる場として活動していく。